

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成21年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4071901591
法人名	有限会社 マルミ産業
事業所名	グループホーム マルミ
所在地 (電話番号)	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田3764-1 (電話)0947-46-4248

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年1月6日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(平成20年12月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤(専任5人兼務 1人)非常勤 5人 常勤換算 4、6人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築/改築</u>
建物構造	木造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年12月12日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80、1歳	最低	69歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後野医院 あとの歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者一人ひとりのその暮らしを大切に、穏やかな暮らしの中で地域と交流を図っていく」を理念の柱とし、四季折々の香春岳を望む、郊外の住宅地の中にグループホームマルミがある。職員は利用者の意向を的確に把握し、自由でのんびりと過ごせるように工夫し、支援している。健康管理には特に気をつけ、常勤の看護師を中心に利用者の心身の状態をチェックしながら、介護サービスを実践している。地区公民館の文化祭に金魚すくいを出店し、利用者の作品を出展している。また、小学校給食会に参加して、地域との交流を図っている。防火管理には特に気をつけ年2回の消防、避難訓練を実施し、スプリンクラーの設置も検討している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点は5件であるが、「地域密着型サービスとしての理念」は改善が出来ている。残り4件は改善に向けた努力が行なわれている。今後は、「地域とのつき合い」「市町村との連携」「運営に関する家族等意見の反映」「職員を育てるための研修会の参加」「ホーム独自の多機能性を活かした取り組み」「地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練と災害時の非常食、飲料水、毛布等の備蓄」等の取り組みが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は施設長が各職員に意見を出してもらいそれを取りまとめて作成するようにしているが、職員からの協力が得られず苦勞している。今後は自己評価、外部評価の意義を職員が理解し、改善に向けて実践できる体制をつくるために、職員一人ひとりが自己評価作成に関わっていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族、区長、民生委員、行政職員、ホーム理事長、施設長等が参加し、ホームからは現状、活動状況、行事予定などを報告し、参加者からの質問や情報の提供など活発に意見交換が出来ている。今後は運営推進会議の意義や役割を十分に説明し、理解してもらい、積極的に参加してもらえるように努力していくことが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口、担当者名を掲示し、家族の心配事、要望、苦情などが出やすいように配慮している。今後は出来るだけ早い時期に家族会を設立し、家族同士のコミュニケーションをとり、ホーム運営に関する家族会としての要望や協力体制の確立を、目指して努力していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、公民館の文化祭、小学校の給食会など、住宅地の中の地の利を活かし、地域の行事に参加する事で、地域との交流が始まっている。また、利用者が一人で外出した時など、近隣住民からの連絡で、大事に至らない等、連携も取れている。今後はホームの行事には家族だけでなく、地域の方にも案内し、気軽に参加してもらえるように工夫することが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中でその人らしく暮らしていくことを理念に掲げ、見やすい所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の採用時に、管理者が説明し、理解してもらうように説明している。理念も各場所に掲示している。		理念はグループホームの原点であることを、職員がより一層理解できるように、ミーティング等で常に唱和するなどが望まれる。
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事等には参加しているが、ホームで行なわれる行事への住民の参加など相互交流が行われていない。		住宅地の中に位置した環境を大いに活かし、散歩時などに、ホームに気軽に立ち寄れるような関係づくりが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は外部評価の意義を理解している。自己評価は、職員の意見を聞き全員で取り組んでいる。評価の結果は市の窓口を持参している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、行政などの出席のもとで2ヶ月に1回開催し、ホームの現状や取組、参加者の意見など活発な意見交換が行われて、サービス向上に繋げている。		災害時の地域の協力を得られるよう、会議時の議題にすることもひとつの選択肢である。又地域包括支援センターからの参加が望まれる。周辺情報や、成年後見制度が必要になったときの相談など協力関係の構築にも繋がる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課、福祉事務所、障害者福祉課など、機会があるたびに訪問し連携を図っている。外部評価の結果も届けている。		地域包括支援センターとの連携が望まれる。特に地域包括支援センターの相談員との連携、相談員の運営推進会議への参加要請など、また市町村の介護相談員の協力が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加はないが、利用者の中に必要と思われる該当者がいて、地域権利擁護事業や成年後見制度について勉強しているが、活用には繋がっていない。		パンフレットを用意し、利用者や、家族にも必要なときに説明できるような体制が望まれる。又研修会への参加も望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者の暮らしぶりが分かるようなホーム便りを発行し、一緒に金銭出納簿の写しを同封している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族会は結成されていない。玄関に意見箱を設置しているが、要望や意見などの活用はされていない。		家族が苦情や不満を言うことを躊躇する心情を理解し、家族会の結成や、家族同士の集まりで意見を出せる仕組みを作ることが望まれる。又市町村の介護相談員や、包括支援センターの総合相談員などの活用も望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を少なくすることで、利用者との馴染みの関係が出来る様に支援している。管理者は、職員が働きやすい環境づくりに努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用には性別や年齢の制限は行っていない。職員の自己実現には職員の希望を取り入れたローテーションを組んで対応している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	管理者は職員に対して常に人権尊重に対する教育や啓発活動を行っている。利用者は人生の先輩であり、その人らしく過ごせるよう、思いやりの心を大切に支援している。		市町村等の人権研修への参加が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、内部研修の開催が困難な状況にある。		日常的に学ぶことを推進し、年間研修計画を作成し、パートを含めた職員全員が参加の機会が持てるように勤務ローテーションの工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同一法人のグループホームが、県のグループホーム協議会に参加し情報を共有している。近隣のグループホームと連携を取り、相互訪問し、介護サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入居で馴染みの関係を作り、家族の意見を取り入れ、利用者が納得して入居してもらっている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、一緒に過ごす関係作りを築いている。また、利用者から料理の味付けなど学んだりして、支え合う関係を築いている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントを丁寧に時間をかけて取り、利用者の思いを汲み取っている。日常的には普話などをしながら利用者の意向を把握するように支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のチームケア会議で全員で話し合い、家族の訪問時に話を聴き、利用者の一人ひとりの意見を反映した介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行い、状態変化に応じてその都度見直している。見直しの時は、モニタリングを行い、ケア会議の中で、話し合っ計画を作成し、本人や家族の同意を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常勤し、医療に関しては24時間対応が出来る。医療機関への受診や状態変化に対しても、すばやい対応がなされている。又馴染みの美容室への送迎も行い利用者の入居前の生活に近い状況を保つように心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医へ、本人や家族の希望があれば通院支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し、職員全員で方針を共有している。現在のところ看取りの経験はないが、必要に応じて、本人、家族、かかりつけ医、ホームの協力医療機関と、話し合う体制作が出来ていている。また常勤の看護師がいるので心強い。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時の言葉使いや、さりげない誘導などプライバシーに配慮した対応がなされている。また個人情報の取り扱いにも十分な配慮がなされている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは出来ているが、利用者の一人ひとりのその日の体調に合わせ、利用者のペースに沿った支援がなされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや配膳などが行われ楽しい食事風景であるが、職員が介助のため利用者と一緒に食事が取れていない。		共に暮らすという意味からも、同じテーブルで、楽しみながら一緒にの食事が望まれる。食事介助の方法などの工夫も望まれる
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回午後となっているが、利用者の希望があれば、夜間を除いては柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの残存能力の活用を行いながら、支援している。料理の味付け、後片付け、カレンダーの日めくりなど楽しみながら出来る様に支援している。ホームの中での食事会などでお寿司を作り皆で楽しんでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物など希望に添った支援がなされている。地域の行事への参加、遠出など、利用者と職員で話し合いながら実施している。		
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し日中は開放している。職員は外出しそうな様子を察知し、さりげない声かけなどで対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導で避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練、地域の方の協力を得た訓練はなされていない		夜間災害時は、地域の方の協力が不可欠である。次回は地域の方の参加を得た訓練が望まれる。運営推進会議で、グループホームの災害対策の理解を求め、協力体制を築いていくことも望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、水分摂取、食量など一人ひとりの状況が把握し、利用者一人ひとりの状態に応じた対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な玄関を入ると、広い廊下があり、時間がゆっくりと流れているようである。浴室、トイレも広々として心地良い。台所はオープンキッチンで美味しそうな料理の臭いが漂っている。居間兼食堂には日めくりカレンダーや、ゆっくりと寛げるソファがあり居心地が良い。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広々としていて、思い思いの懐かしい使い慣れた家具があり、個性的な飾り付けがされている。仏壇の持ち込みもあり気持ちよく過ごせるような居室となっている。		